

# 林業とくしま



## （徳島県林業指導者交流研修会を開催）

この研修会が去る11月30日・31日の2日間、川島及び徳島管内で開催されました。  
自然工法用の苗木生産・海布丸太生産・天然絞丸太生産・作業道開設と間伐の現場・木材加工等  
幅広い視察研修で、技術と情報の交換と共にお互いの交流が深まった2日間となった。



「小さな木

いつかは緑の ダムになれ」

（平成14年徳島県緑化標語優秀作品）

鷺敷小学校6年

延清正博君の作品

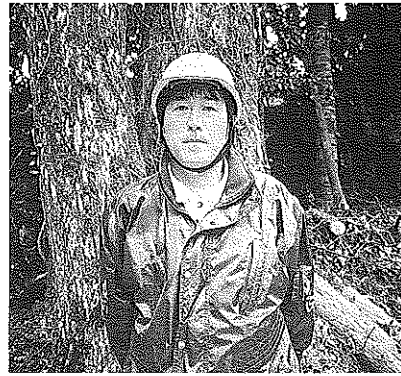
No. **260**  
2002.3

# 山の神さま

徳島県林業経営士 日和佐町

坂本

登



私は、ここ十年間、毎年九十日くらい神社、海岸線の枯松を伐つている。幹周り10m、二百年くらいの赤松から、命綱を使って伐るような場所に立っている黒松などを伐つている。マツノザイセンチュウや酸性雨のお陰で飯を食っているようなものである。

ところで、指標木、アテ木という言葉を知ったことがあるだろうか。指標木というのは、風雨のときに自分の位置、道の位置を確認するため

山で伐るのを手伝った枯松だが、幹周り十三m余り、樹齢約五百年の指標木であった。その松で何人の人が助かったかと思ひ、木の偉大さを改めて感じた。

植えてあつた松のことである(杉・松もある)。松は、菌根を作つて生長するから尾根筋の痩せた土地や海岸線の砂地でも育つ。そのために尾根、低坪に植え、神にたとえて残してきた。また、アテ木というのは漁業をするとき、自分の位置を知るため尾根に植えた松、島に植えた松のことだ。これを見て線を引き、三点を結び自分の位置を確認した。より多くの松を結んでより正確に位置を知り、大漁であつた場所、岩礁の位置などを確認した。また、悪天候のときの緊急避難など、植林した松により人間が生きているがための目印になつていた。

この指標木、アテ木は、今ではほとんど枯れてしまった。今は、人工衛星を利用した測量により船舶の位置や自分の位置を携帯電話でも知ることが出来るが、携帯電話を持つていないとき、使えないときどうするか、考えたら怖い。昨年、神

昔、山の中腹や人家のきれた谷間に山神を建立し、それを境界に人間の土地と神の土地に分けた。神の領域は、天然の広葉樹の林が多く生い茂り、動物が生活するには十分な食糧があつた。いつしか神の領域に人間が入り、広葉樹を伐採し、杉、松を植えた。このことによつて、山村の雇用ができ、山の生活は豊かになつた。しかし、その後、過疎化が進み、人が足りなくなり、その林が野放しになつていく。神の領域として区分し、崇め、水源のかん養、動物性たんぱく源、あるいは海のミネラルの供給源として残してきた山が、今、壊れようとしている。

物を生み出し(木、動物、魚)、家を守る(川や海、人間を守る)ことにたどえて、女性のことを「山の神」と呼ぶらしい。 県の方々にいろいろ提案しているが、山の神が怒らない前に、何か手を打つ必要があると思う。

## もくじ (林業とくしま 257号)

やまびこ(山の神さま).....	2
鉄人コーナー(0.1トン七変化×2)	
(森の素材の店).....	3
林政の窓(「とくしま森林づくり構想」の策定について).....	4
特集「森林・林業及び地域の活性化を担う徳島県の林業グループ活動の紹介」.....	6

林研とみんなの情報交流コーナー.....	8
技術情報(竹林の侵入防止法).....	10
阿波だぬき(峠歩き考).....	12
東西南北.....	13
おしらせ.....	14
広告.....	15

## 〇二トン七変化×2

美郷村

### 河野利英氏

今回は、読者の皆様方に謎の人物をご紹介しますと思います。西暦一九五三年三月十四日美郷村生まれ、年齢四八才、身長五・六五インチ、体重〇・一t。ある時は、豆腐の行商人。ある時は、山林労働者。ある時は、(旬)河野商店専務取締役。素材生産業者。美郷村議会議員。林研グループ「The山師」の木工職人。三十haの林業経営者(経営士)。阿波麻植森林組合理事。集約林業研究会副会長。美郷中学校PTA会長。阿波麻植素材生産協同組合理事。(旬)希林の取締役。美郷村商工会の理事。美郷林業同友クラブ機械部会長。…そしてその実体は、バイタリティーの固まり、人間機関車「河野利英氏」その人であります。

「河野はん」の活動は、このように多方面にわたっています。人柄の良さで行動力で、地域の方々の信頼は厚く、特に森林施業実施



協定の締結や作業道開設の推進に大きな力を発揮していただいております。その活動が実を結び、美郷村では、徳島県第一号の森林施業実施協定が締結されたのをはじめ、平成十二年度末で十六団地三三八四haとなっており、間伐等の森林施業が進められています。また、「道がなかったらえらうて山へや行けるかいな(本人談?)」ということ、作業道の開設を積極的に推進し、平成十二年度末には、開設延長が六万一千m余りとなっています。林業の未来を見据え、忙しい毎日を送られています。

「へへへ」とオクターブ高い笑い声を残し、美郷を愛し、山を愛し、妻を愛する男河野は、今日も行く。「豆腐売りを見かけたら声をかけてね」とのことでした。河野はんの今後益々の活躍を期待しております。

## 森の素材の店

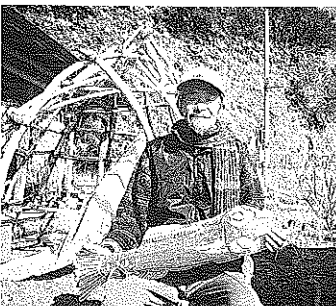
穴喰町

### 長尾国照氏

最近、世の中がどんどん忙しくなりストレスが溜まる人が増えているようです。そんな人に、穴喰町穴喰浦、竹ヶ島に行く途中にある長尾国照さんの「森の素材の店」をご紹介します。長尾さんの行っているこの「店」、むしろ広場と言った方がいいかも知れませんが、大変おもしろいところで評判です。まず、そこへ行くとなんかつこいポニーが出迎えてくれます。それとチャボや地鶏、イヌ、ネコが



「大勢」よってきます。あるいはあちらこちらで寝ています。みんな放



し飼いで、ここでは時間がゆつたりと流れているようです。

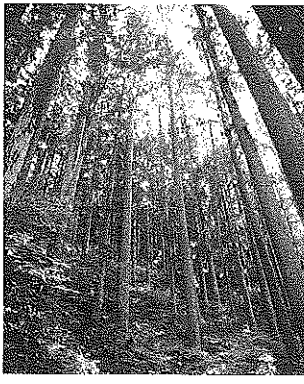
長尾さんは、高校教員を退職したあと四年くらい前からこの小公園をオープンしています。休日には、県内はもとより神戸、姫路、愛媛などからも多くの家族連れが訪れるそうです。動物たちとふれあったり、木工品を作ったりして楽しんでいくそうです。長尾さんの自身も魚の形をした木工細工や木の壁飾り、松ボックリの置物などを作って販売もしています。ログハウスもあります。

長尾さんは、「最近では農林業が非常に厳しい状況だから、何でもいから行って、とにかく気を出さなくてはいけない。」といつも思っているそうです。

とくしまの森林をこれからどう育てていくか  
 もり  
**「とくしま森林づくり構想」**  
 の策定について

ご承知のとおり、本県は県土の七六%を森林が占める全国でも有数の森林県です。森林は木材を生産するほか、県土の保全や水資源のかん養などの役割により、県民全体に様々な恵みをもたらしています。

二十一世紀は「環境の世紀」と言われ、資源循環型社会の構築や自然環境に配慮した施策が強く求め



られています。再生産可能な、環境に負荷の少ない素材である木材の供給のみならず、生き物に不可欠な水

や空気の供給源として、森林の役割はますます重要となつてきております。最近では、二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫としての森林への期待も高まつており、森林に対する県民の要請は、一層多様化・高度化しております。

一方、これまで森林の整備を支えていた林業は、木材価格の長期にわたる低迷により生産活動が停滞し、林業経営の担い手である山村の過疎化・高齢化も重なり、適正な施業や管理が行われない放棄された森林の増加が憂慮されています。

森林が持つ木材生産以外の、水源かん養・土砂流出防止等の公益的機能を考えますと、森林の管理を林業関係者だけに任せるのではなく、社会全体で森林の管理・整備を支えることが必要になつてきていると言えます。

先人が英知と努力で営々と守り育ててきた緑豊かなとくしまの森林を、時代の新たな要請に応えながら次世代へ引き継いでいくために、将来を見据えた徳島県の森林づくりの方向性を示すことが必要となつて



きました。

こうしたことから県では、本県の森林に求められている機能と、それにふさわしい森林のあるべき姿、森林づくりを実現するための県民・行政等の役割を明確にした本県の森林づくりの理念「とくしま森林づくり構想」を、この三月に策定しました。

構想策定にあたっては、森林林業関係者、環境問題関係者、学識経験者、行政関係者十五人による「とくしま森林づくり構想策定検討委員会」を設置して、徳島の森林の特性、徳島型の林業・森林整備のあり方などについて、活発な議論と様々な御提言をいただいたりしました。

また、広く県民の皆様の意見を取り入れるために、ホームページの開設や、今年度から施行が始まった県のパブリックコメント制度による意見の募集、次代を担う青少年代表としての「緑の少年隊」からの意見の募集、県政モニターアンケート「とくしまの森林・林業に関する意識調査」の実施等を行ってきました。県民の方々に施策提案をしていただく「県政提言ボックス」の募集では、五〇件近くの提言を頂き、これからの森林・林業施策に反映させていくよ



# 窓の政林

うにしております。

とくしま森林づくり構想は四つの章から構成されています。第一章では、上述のような構想策定の背景や構想の性格について述べております。また構想の期間は二十一世紀末までとしております。

第二章は、徳島の森林の特徴やその果たしている役割など、徳島の森林の現状や社会情勢について述べた内容となっております。

第三章では、国の施策とも連動して、森林のゾーニングの理念を定めています。「水土保全林」「森林と人との共生林」「資源の循環利用林」、それぞれの森林のあるべき姿とタイプごとの森林づくりの理念を示しております。

最後に第四章では、理想的な森林づくりを実現するために、県民・森林・林業関係者、市町村、県がそれぞれ果たすべき役割について明らかにした内容となっております。

県では、今後この森林づくり構想を基本理念として、森林・林業施策の展開を図っていくように考えております。

上述しましたように森林や林業をめぐる情勢は大きな転換期にあ

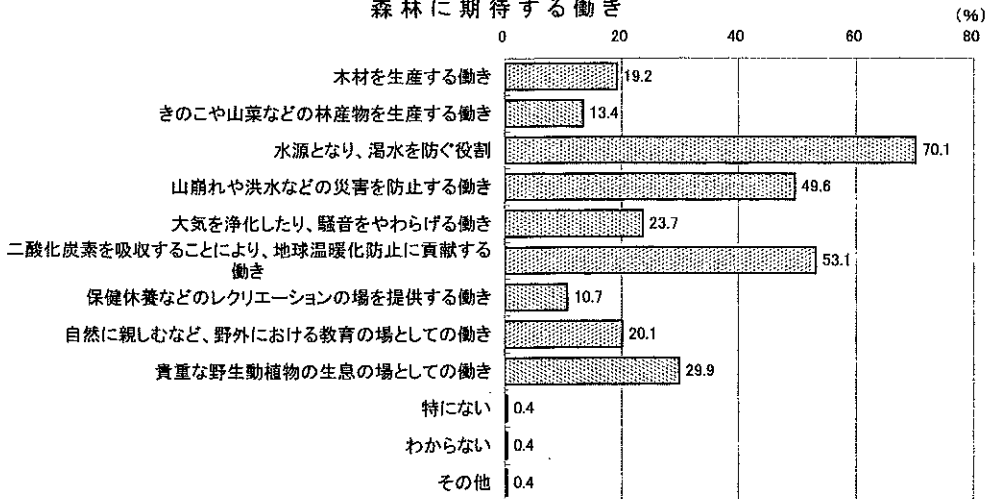
ります。森林の水源かん養機能に注目した水源税、二酸化炭素の吸収源としての森林の取り扱い、あるいは雇用対策としての森林整備への就労など、県の内外を問わず、森林の果たすべき役割に注目した議論が広く行われております。

徳島県の森林の特徴としては民有林、特に私有林が多い（森林総数の八三％）ことと、生育途上のスギ人工林がその大半を占めることがあげられます。木材生産を主目的に植林されたこれらの森林を、森林所有者の財産として活かしながらも、公益的機能を持つ県民全体の森林として持続的に活用していくこと、そのための森林づくりの理念として「とくしま森林づくり構想」がご理解いただけますよう、よろしくお願

林業振興課 森林政策担当



森林に期待する働き



※ 平成13年7月に県政モニター登録者を対象に行われた「徳島の森林・林業に関する意識調査」での設問「あなたは今後、県内の森林にどのような働きを期待しますか。」の集計結果。回答数224 複数回答

# 森林・林業及び地域の活性化を担う 徳島県の林業グループ活動の紹介

一 はじめに

最近の森林・林業に対する県民の要請は、前欄の「林政の窓」にも掲げたとおり、水資源のかん養を第一位として、地球温暖化防止、生物多様性の保全や国土の保全、教育文化活動の場の提供など、ますます多様化、高度化し、木材を含めた林産物の供給への期待は減少してきています。

また、これまで森林を守り育ててきた林業は、外材との競争や採算性の悪化、担い手の減少・高齢化などにより極めて厳しい状況にあり、森林整備の重要な拠点である山村では、過疎化と共に生産活動などの活力の低下が続いております。

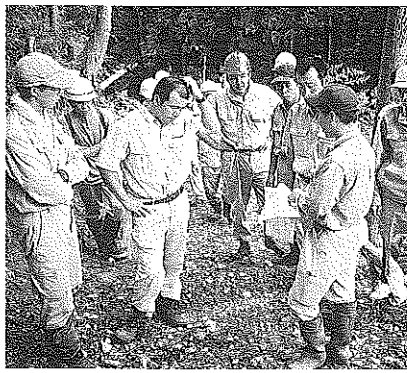
こうした状況の中で、日夜、林業の在り方、山村社会の在り方を考え、林業の振興はもとより、地域社会の提案と実践を行っている本県の林業グループ活動について紹介します。

## 二 林業グループの現状

県内には、別表のとおり、六十三の林業グループが設立され、県下各地

で、それぞれのグループがテーマを掲げ活動を展開しています。

その活動も、間伐や作業道の開設、天然絞丸太を含めた集約林業の研究、木材の有効利用に関する研究など林業の立場から真正面に取り組むグループや椎茸や木炭等の特用林産物の生産と研究を通じた仲間づく



り、また、各種のイベントの開催や積極的な参加を通じて地域の活性化に努力しているグループの他、最近では、小中学校等に対しての森林・林業教室の開催などグループの活動は幅広

別表：林業グループの現状

事務所名	林業グループ及び 会員数		内 訳				県林研 への 加入状況
			男性のグループ		女性のグループ		
	グループ数	会員数	グループ数	会員数	グループ数	会員数	
徳島	6	159	4	141	2	18	4グループ
阿南	8	151	7	139	1	12	7
日和佐	10	118	9	116	1	3	4
川島	11	149	11	149	—	—	6
論町	14	474	12	344	2	130	9
池田	14	211	11	183	3	28	11
計	63	1,262	54	1,071	9	191	41

く活発に展開されており、特に、ここ十年位の間、女性の活動が活発化し、現在、県下に九の女性グループが誕生しています。

その活動も、林業生産活動への参画はもとより、山野草の押し花や染物教室、かすら細工の普及、椎茸等地域の特産物の商品開発や地域おこしイベントの開催など女性ならではの

の感性を活かした取り組みが展開されており、

## 三 最近のグループ活動の成果

本県の林業グループは、厳しい林業の現状や山村社会の課題を見極めながら、解決に向けて積極的に取り組んでおり、その成果が県下各地で出てきています。

それを証明しているのは、毎年開催されている、全国林業グループコンクールに、中国・四国ブロックの代表として、五年連続で参加し、全国でも優秀な成績を残しているところにあります。



ここでは、全国大会に参加した、五グループの活動の一端を紹介いたします。



## 五年連続…全国林業グループコンクールに 中国・四国ブロック代表として参加・優秀な成績を残す

(池田町：阿波池田やまびこ会)

- 一 設立 平成五年
- 二 会員数：十九名(女十七、男二)
- 三 主なプロジェクト活動
  - (1) 椎茸うどん等の特産品開発
  - (2) 老人ホームへの慰問
  - (3) 佐野しいたけ祭りの開催
  - (4) 民泊修学旅行の受入と交流
  - (5) 「やまびこしいたけ」のブランド化

四 平成九年度全国大会参加

林野庁長官賞受賞



(上勝町：彩女会)

- 一 設立 平成二年
- 二 会員数：十名(女十)
- 三 主なプロジェクト活動
  - (1) 間伐材を利用した木工クラフト製品、地域の草花を素材とした押し花製品等の作成・展示・販売
  - (2) 作品を通しての都市への情報発信・交流活動
  - (3) 森林・林業イベントへの参加と協力

四 平成十年度全国大会参加

林野庁長官賞受賞

(穴吹町：古宮林業推進会)

- 一 設立 昭和四十三年
- 二 会員数：一二七名(男一〇五、女二十二)
- 三 主なプロジェクト活動
  - (1) 間伐等共同作業の実施
  - (2) 機械装備を進め、間伐・作業道の整備
  - (3) 森林林業のPRと後継者育成子ヒッコ部会の結成
  - (4) 森林ボランティア活動の受入

と実行指導

- (5) 清流穴吹川の清掃

四 平成十一年度全国大会参加

全国林業改良普及協会

会長賞受賞

(木頭村：木頭村林業振興会)

- 一 設立 昭和四十七年
- 二 会員数：三十九名(男三十八、女一)
- 三 主なプロジェクト活動
  - (1) 中学生に対し、枝打ち・間伐、ブナの植栽指導
  - (2) 乗用チェーンソー設置講習会の開催と設置技術者の養成
  - (3) 間伐材やユズ枝利用による炭焼き講習会の開催

四 平成十二年度全国大会参加

林野庁長官賞受賞

(美郷村：The山師)

- 一 設立 平成八年
- 二 会員数：十一名(男十二、女一)
- 三 主なプロジェクト活動
  - (1) 間伐材加工製品の創作活動
  - (2) 東京都での「ギフトショウ」等各種のイベントへの出席
  - (3) 「The山師」のあかり展等

の開催

- (4) 木工体験教室の開催と支援
- 四 平成十三年度全国大会参加
- 来る三月十四日に全国大会で活動発表の予定

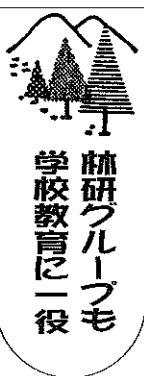
すでに林野庁長官賞は決定している。

以上、最近の活動事例を紹介しましたが、この外にも、多くのグループの皆様が積極的に活動を展開されています。

二十一世紀の森林・林業及び山村の活性化を考える時、この一、二〇〇人余りの会員の皆様が、情報交換を密にして、お互いに知恵を出し合うことにより、明るい未来があるものと信じます。



# 林研とみんなの情報交流コーナー



## 高校生への林業教室開催

昨年十一月二十八日、森林経営インターシッピング事業の一環として、上那賀町におきまして丹生谷地域林業研究会(会長中原敏博氏)のメンバー四名による林業教室が開催されました。

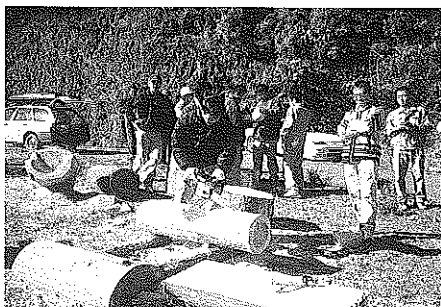
当日は、上那賀町的那賀高校平谷分校一年生から三年生まで計十一名の生徒を対象に行われましたが、今年度は、伐採から木材の加工に渡る森林・林業全般の作業を体験並びに理解してもらうことにしました。

丹生谷林研は、主に現場作業での指導を行いました。特にチェーンソーを使った大径木伐採や根株からイスやテーブルを作る作業には、高校生一同感心している様子でした。

また、ログハウス作りの講習では、林研のメンバーが自作した「スクライバー」を使ってメンバーの指導を受けましたが、高校の授業で習ったということもあり、皆興味深そうに作業を行っていると印象的でした。

昼食は、橋本光治氏の奥さん手作りの豚汁を頂き、午後は平谷分校のOBが働いている製材工場の見学の後、林業関係者と意見交換を行いました。

意見交換の場では、林研サイドから高校生に対する要望が多く出されましたが、今回の体験を通じて林業に関心を持ってもらつと共に、将来林業に関わる仕事に就いてくれればと期待しているところです。

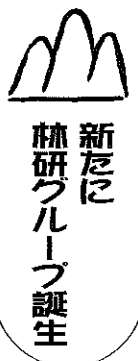


## 「The 山師の森林林業教室」

美郷村では、毎年村内小学校を対象に森林林業教室が開催されています。今年度は、十二月十日に中枝小学校で、種野小学校と合

同で実施されました。当日は、The 山師が作成した木製プラントーキットを使用し、会員の指導により、児童たちは切断・組み立て・表面処理を行いました。普段使い慣れない道具に悪戦苦闘の連続でしたが、手作り作業で木に親しみを感じてもらつと共に、木製品を利用することが地球温暖化防止につながるということを理解してもらいました。

今後は、作成した木製プラントーを利用し、緑の少年隊の緑化活動に役立てる予定です。



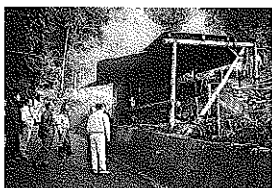
## 黒沢夢の炭を創る会「結成」

池田町漆川地区において、林研グループが結成されました。

この会は、地域で気のあつた仲間八名が集まって、炭焼きを中心に地域の活性化を図ろうとするグループです。特に、この会では竹炭を中心に生産することにしており、近年、各地で問題になっている、放置竹林による森林の荒廃を防止することが期待されます。

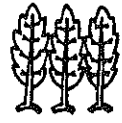
また、メンバーは全員かなりな先輩ですが、この高齢化時代に、年輩者が元気をたして山間地域の故郷を守るということは、大変意義深いことだと考えられます。

今後は、三好郡炭の会にも入会し、情報交換や技術の研鑽を行うこととしております。今後の活動に期待してください。





# 林研とみんなの情報交流コーナー



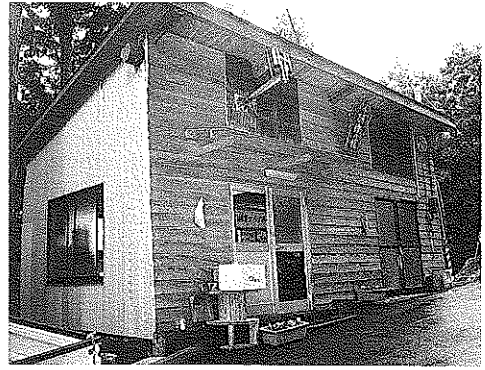
**活動拠点が  
完成しました**

西井川林業クラブ(宮内清秀  
会長 会員三十三人)は、昭和三十  
四年に設立され、四十年以上にわ  
たり地元の小学校での林業教室の  
開催や都市住民との交流活動を続  
けている県内でも伝統のある林研  
グループです。

この度、グループの活動の拠点と  
して「研修の館」が完成し、十二月  
十四日に落成式が行われました。

この研修の館は、もともとはグ  
ループが所有する炭窯で焼いた炭  
の貯蔵庫として利用していました  
が、これを会員が自分達の手で内  
装の改修を行ったもので床、壁、天  
井の全面にわたってふんだんにス  
ギ材が使われています。また、昔懐  
かしいまきストーブも備えられて  
います。

今後は、この研修棟を利用し、会  
員の研修の場として、また樹恩ネ  
ットワークの都市住民との交流の  
場として幅広く活用されていくそ  
うです。



**作業道開設研修に  
関さん大活躍**

**木屋平村林業簡易作業道クラブ  
(フォレストロード)  
簡易作業道研修会を開催**

平成十三年十二月十四日(金)、  
木屋平村中尾山高原の近く太合カ  
ケの東川原さん所有山林において、  
簡易作業道の研修会が開催されま  
した。(出席者八名)

今回は、上勝町森林組合の関さ  
んを講師に招き、簡易作業道開設  
にあたって注意する点とバックホー

による開設方法について実技指導を  
受けました。まず、最初に関さんが、  
○・一mのバックホーを使い、約二〇  
mの作業道を開設しました。会員  
の誰もが、動きが無駄がないと感心  
していました。次に、会員の皆さんも  
実際に機械に乗り操作を行いました  
ましたが、講師の関さんのようにうま  
くはいきませんでした。



今後、間伐・搬出間伐を推進する  
ためにも、  
簡易作業  
道の開設は、  
とても重要  
です。計画  
的な簡易  
作業道の開  
設がますま  
す進むよう  
期待してい  
ます。

## 勝浦川若手林業研究会の取り組み

さる十二月十五日に勝浦川若手  
林業研究会を中心として、作業道  
の開設研修を勝浦町で実施しまし  
た。参加者は、地元勝浦町林業研究  
会のメンバーを含めて十九名で、上  
勝町の関さんの指導で、交代でバッ

クホーに乗り込み開設を行いました。  
た。

まず、全員で開設路線の踏査を  
し、地質、地盤の軟弱な箇所や谷な  
どの地形の現状がどうか、気を  
付ける点は何かを注意しつつ経済  
的な線形を考えながら見ていきま  
した。

その後、実際に運転する機械(○二五m<sup>2</sup>バックホー)の周りで操  
作方法や特に安全について説明し、  
関講師に実演してもらいました。そ  
の後は、参加者一人ずつ実際に機  
械に乗り込み作業道を開設してい  
きました。地形条件も良かったので  
が、この一日で研修生が抜いた延長  
はほぼ一〇〇m程度だと思えます。  
又、同時に作業道を作る時の注意  
点、及び工法(特に横断側溝)につ  
いても研修  
しました。  
また、当  
日は同時  
に間伐講  
習会も行  
いました。



# 竹林の侵入防止法

## 「モウソウチクの場合」

徳島県農林水産総合技術センター

森林林業研究所 森林生産担当

主任研究員 後藤 誠

### 一 はじめに

私たちの身近に生育している竹林は、タケノコ栽培のため植栽されましたが、生産量の減少とともに、放置されるようになりました。タケノコの生産量は、日本全国でこの十年間で四分の一にまで減少しています。そして、放置された竹林が周囲の人工林や二次林、荒地などに侵入しています。他県のモウソウチク群落の調査事例では、年間二〜三m程度分布が拡大している推定結果も報告されています。

最近、当研究所へも人家の近くにモウソウチクが広がっているの、どうにか侵入を防げないでしょうか？という相談もあります。

今回は、他県の試験研究経過や成果を中心に、竹林侵入防止法を紹介いたします。

### 二 侵入防止の方法

#### 物理的防止法

タケが地下茎を伸ばすことで成育地を拡大することに着目して、タケの侵入を防ぎたい場所に、各種シートや板などを埋設し、物理的に侵入を防ぐ方法が各地で試験されています。しかし、資材を埋設して、その効果を判断するために三〜五年間ぐらいかかることもあり、現段階では実用的な防止方法が確立されていないのが現状です。

各試験地では、各種の資材を使って、タケの地下茎を防止した事例が報告されています。しかし一方では、資材の埋設深さや埋設時のちよつとした資材破損のため防止効果が不十分な事例や、タケの地下茎は地上部をも伝つて侵入するため、資材を埋設するだけでなく数十センチ地上部を出して設置したほうが良いことなどが報告されています。経過報告を聞くと、タケの地下茎の侵入力には想像以上の力があると考えられます。

#### 竹幹注入法

この方法は、単木的にタケを枯殺する方法です。福岡県森林林業技術センターが実施している除草剤を用いた「竹幹注入法」を紹介いたします。

除草剤を用いた竹枯殺方法には、「全面散布法」、「根株散布法」、「竹幹注入法」などがあります。この中で「竹幹注入法」は、除草剤使用量が少なくて済む実用的な方法です。また、除草剤の使用量が少ないため、周辺環境への影響も少ないと予想されます。

#### ア 注入する穴

まず、竹幹に除草剤を直接注入するために、タケの地際から五〇cm以上、作業が容易な七〇cm程度の幹部位に電気ドリル（木工用など）で、直径二〇mm以上の穴をあけます。幹部位の穴の位置は、節と節との間の上部とします。節間下部に穴を開けて除草剤を注入すると、タケの生理的な現象で穴から除草剤が溢れ出る可能性があります。場

合によっては、穴をガムテープで塞ぐのもいいでしょう。



(注入器と竹幹注入穴の状況)

竹枯殺用簡易注入器

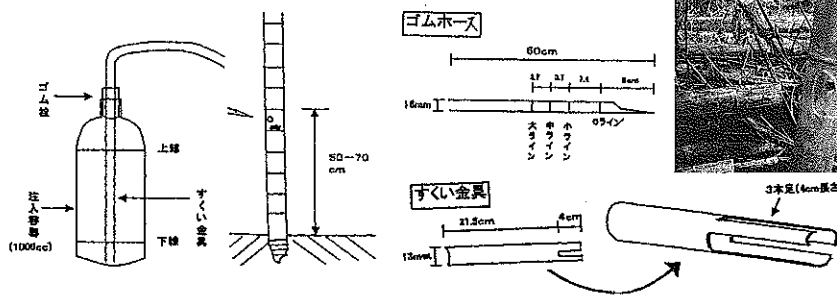


表-1 除草剤の種類と処理方法

薬剤名			処理方法	1本当たり	枯損に要する
系統	商品名	形状	濃度	注入量	日数
塩素酸系	クロレートS	粒剤	原粒	10g以上	50~140日
塩素酸系	クロレートS	粉剤	原粉	25g以上	50~140日
脂肪酸系	フレノック	微粉剤	原粉	5g以上	330~480日
アミノ酸系	ラウンドアップ	水溶剤	原液	原液3cc以上	330~490日
塩素酸系	クロレートS	粉剤	原粉	10倍液50cc	200日程度

### イ 各種除草剤の枯殺特性

除草剤の種類と処理方法を表1に示します。

侵入竹の処理場所が人家等に近く、平坦地等で作業条件が良い場合は、購入してきた粒剤や粉剤をそのまま注入すれば良いでしょう。しかし、急傾斜地で林道から遠く歩いて時間がかかる所では、資材運搬が大変なため、水溶剤の使用が適していると思われます。

また、薬剤を注入するタケの本数が少ない場合は粒剤や粉剤の使用が手軽ですが、本数が多い場合は水溶剤の利用が経済性や効率性の面で適していると思われます。

補足として、粉剤は湿度が高い状態では注入が不可能となる場合があります。

枯殺方法の検討結果から、塩素酸系及び脂肪酸系、アミノ酸系の何れも枯殺効果は認められますが、枯殺までの日数や処理手間等からは塩素酸系の粒剤が良好と考えられます。

また、枯殺剤の注入時期については、冬季が最も効果的であるという結果がでています。

### ウ 簡易注入器

福岡県森林林業技術センターでは、

### 環境や人に影響のある物質(除草剤)

使用を考慮して、水溶剤をタケに注入するための簡易注入器を開発しています。

簡易注入器は、一〇〇ccのペットボトルのキャップ部にゴムホースを取り付けたものです。除草剤を約八〇〇g詰めて、ゴムホース先端部位を竹幹注入穴に入れ、容器を上下することによって、タケの径が小中大別に定量注入できる器具です。

器具作成に要する資材はペットボトル(廃品利用)、アルミパイプ、塩化ビニール性、ゴムホース、ゴム栓等これらの経費は約二三八円だそうです。ここでは詳しい内容を紹介できませんが、当研究所でもこの簡易注入器を試作・試用する予定です。

試用結果については、別の機会に報告したいと考えています。

先にも述べましたが、この方法の長所は、環境や人に影響のある除草剤をペットボトルで調合し、直接竹幹部位に注入することができるということです。

その他として、タケは地下茎が繋がっているため、この枯殺による他のタケへの影響ですが、結果的には注入竹幹しか枯れないそうです。

### 三 おわりに

モウソウチクの寿命は平均一五〜一六と言われ、人工林等に侵入したタケも拡大するためには、毎年新たなタケの発生が必要です。これらのタケの生理生態を逆に利用し、タケノコの時に除去すれば新竹が無くなります。そして、長期的に侵入竹全体の竹齢が高まればタケの勢力は年々減退し、侵入拡大の抑制効果が期待されます。

福岡県では、除去したタケノコを仮称「穂先タケノコ」として商品化が進んでいます。採取時期は五月上旬下旬頃、二〜三m伸びたものから先端部位五〇cmをカットし商品化するもので、柔らかくて甘み・葉触り感があり、大変美味しいとの評価を得ているそうです。主に九州地方で消費され、kg四〇〇円もの高値で取り引きされているとの話です。

そもそも、私たちの生活に侵入してきたタケは、タケノコ生産が減少したために起こった問題なので、基本はタケノコを食ったり売ったりすることが、もともと効果的な侵入竹防止策かもしれません。

最後に、ここで紹介した主な内容は福岡県森林林業センター野中重之氏の文献を引用させて頂きました。



## 峠歩き考

阿南農林事務所

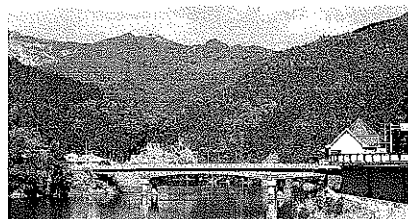
林務課長 山村浩一郎

国道一九五号線、上那賀町役場を過ぎてまもなく、県営長安口ダムにさしかかる。そのダム湖畔から真北方向に聳えるように山並が連なる。ピヨヨンと突き出した尾根が二等三角点、標高一一六九mの東尾山、そのすぐ西隣の鞍部が人に知られる竜峠である。登り口は、ダム湖に注ぐ菖蒲谷川を五km程遡った最奥部、上那賀町東尾にある。

東尾部落は、三方を山に囲まれ、標高六五五mの高地に張り付く小さな集落である。上那賀町誌によると、かつて人馬が交通手段の時代には、県道、郡道の交差する交通の要所として、旅館、郵便局、商店等により賑わったといひ、竜峠、笹峠、小屋峠の峠道を含め、主要路線は四〇〇年の歴史を持つという、周辺には「東尾のお不動さん」として知られ、最盛期の夜市には三〇〇〇人が広場を埋めたというが、今はササユリの花咲く寂れたお

堂や、その他峠の石碑、祠等々そこに多

くの祖先の足跡が深く刻まれ今に残つて  
いる。竜峠は、東尾と上勝町葛又を結ぶ  
標高一〇八八mの高地にある峠で、かつ  
てこの峠道は、周辺村落から勝浦、徳島  
に至る幹線道であった。平成十年度、県  
単、木もれ陽の道整備事業により、東尾、  
竜峠、東尾山頂上、踊石と自然林と景  
観に恵まれた二時間程の行程の周遊  
コースが整備されている。踊り石は、峠の  
南東に位置し、その上で龍神様に雨乞い  
の踊りを奉納したとされる、尾根からせ  
り出した大きな一枚岩で、そこからの展  
望は、眼下には長安口ダムの青い水面及  
び那賀川の流れを包み込むように、上那  
賀から木頭、木沢へと続く山々、正面遙  
かに鱉轟山から吉野丸、湯桶丸と続く  
海部連山と相乗して、荘厳、雄大な口  
ケーションを演出する。すぐ傍らに日本の  
南限といわれるサラサドウダンの巨樹が



あり開花期、紅葉の時期には正に見事といえる。

奥深い山間地

域には、有名、無名の多くの峠道がありま  
す。かつて多くの人が住んだ集落も、峠を越  
えた山道も時代の趨勢により、その多くが  
消えつつあります。東尾集落も現在、定住  
者は唯一戸といひ、昔日の多くの文化、歴  
史、豊かな自然もその中に埋没されようと  
しています。「古くして滅び行くもの皆美し  
」と随筆家小島鳥水は歎いたといいますが、  
グリーンツーリズムが言われ、山村における  
森林、自然の持つ機能、役割の積極的な再  
評価が求められています。漱石になら、たつも  
り、「峠道を歩きながらこう考えた」

私たち山村振興に携わる者は、身近ある  
消えつつものを掘り起こし、陽に当てること  
も、今後課せられた大事な役割の一つにな  
るのではなからうか。

自然は、最良のホスレタルといひます。

山を歩こう、峠道を歩きましょう。



## 川島 間伐講習会に 四七人が参加

平成十三年十二月四日、美郷村ふるさとセンターと柘山県有林で、間伐講習会を開催しました。当日は、小雨模様様の天候でしたが、午後の現地研修時には雨も上がり、参加者は総勢四七名と好評を博し、間伐に対する関心の高さが感じられました。

今回の講習会は、インターロック式T Wウィンチ装着の小型プロセッサを利用した搬出間伐を中心に、間伐材の有利な採材と販売、葉枯らし乾燥の方法及び林業労働安全衛生等、盛りだくさんなメニューで実施しましたが、特に講師としておいでいただいた穴吹町の中山修一さんのかかり木処理の実

演には、参加者からその技に対する感動の大きな拍手が沸き起こりました。また、美馬郡木材協同組合の石田主任さんによる電卓をたいた採材講習も説得力があり、非常に有意義な研修となりました。川島農林事務所 村上 英司



## 脇町 巻枯し 間伐試験地設定

去る十二月六日、脇町の江原県有林内(ヒノキ二五年生)において、森林林業研究所後藤主任研究員指導のもと巻枯し間伐の試験地の設定及び工程調査を行いました。

巻枯し間伐は、木を伐採せず、立木の状態で幹に傷をつけ自然枯死

をさせ、残存木の成長を促す方法です。

試験地は①チェーンソーを使い刃材部まで破壊②ノコナタを使い形成層を破壊の二つの方法で行いました。

特に②については、林業労働者不足が深刻な中、未経験者でも可能な方法として期待でき、今回の工程調査(選木を除く)においては、林務課職員など三名で、三十分で三十本という結果ができました。

今後は、巻枯し木の衰退状況、残存木の成長等の追跡調査を行うと共に、新たな③ノコで傷を入れ皮をむく試験地の設定を考えていきます。

脇町農林事務所 藤澤 智子



## 阿南 「那賀川地域育林祭」 の開催

「那賀川地域育林祭」が、去る一月十日関係者約一〇〇名の出席のもと上那賀町で開催されました。

当日は、「那賀の名匠」である優れた大工さんの表彰の後、熊本県は「泉林業」の泉忠義社長さんに「林業機械と地域林業の活性化」と題して講演を頂きました。

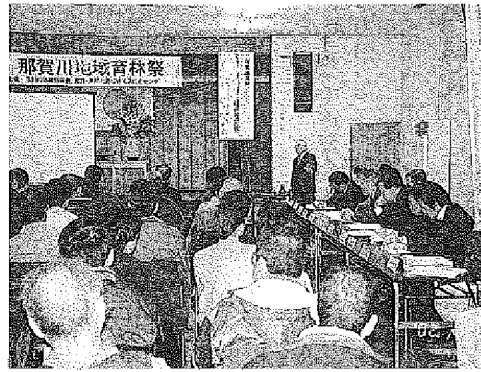
泉社長は、全国でも一早く高性能林業機械を導入され、林業従事者の労働安全対策や生産能率の向上を図られるとともに、一円でも多く山元へ収益を還元することに努力されておりますが、そのあたりの自らの経験に基づいた貴重なお話を聞くことが出来ました。

午後からは、昨年導入されたH型集材機を使用して高齢級の間伐材搬出作業を行っている上那賀町の林業架線の現場を視察し、関係者の見聞を深めたところです。

現在の木材価格や林業従事者を取り巻く状況は厳しいものがありますが、今後とも山を守り、山村での生活を維持していくためには、

機械化は避けて通れない問題であることを改めて実感させられた一日でありました。

阿南農林事務所 山根 誠



## 池田 H型林業架線 技術講習会を開催

去る十二月三日に、東祖谷山村西宇の民有林で、搬出間伐を推進するための有力な技術であるH型架線の講習会を開催しました。

現場の作業を請け負っている㈱とされいほく副社長の半田州甫氏に講師をお願いしました。高知県では、H型架線が搬出間伐の決定版とし

て定着しており、講師にはその普及に取り組み、成功させてきた実績があるので、参加者は、その話しに魅了されていました。

架設するには、それなりの技術を要しますが、この現場では、四十人工で架設し、一日三人で二十五立方メートルの作業能率を実現しています。ただし間伐率が三割程度では作業性も採算性も悪いので、四割以上伐採するのが理想だそうです。

現場作業は、しばらく継続されるので、その間に地元への技術移転が期待されます。

池田農林事務所 兼松 功



## 徳島 女性グループ 間伐体験!!

昨年の十一月二十三日、上勝町瀬津地区に住む女性五人を対象に間伐講習会を開催しました。五人ともチェーンソーを使うのは初めての方ばかりでしたが、みなさんこの日のために(?)用意した新しいチェーンソー持参で参加されていて、強い意気込みを感じました。

丸太を使つてチェーンソーの練習をした後、実際に立木の伐採を体験してもらいました。スムーズに伐倒した人もいれば隣の木にひっつかかつて悪戦苦闘する人もいましたが、終了後、また講習会を開催してほしいという意見があり、年度内に二回目の講習会を開催する予定です。

徐々にでもこのような間伐に興味を持ち、してみようと積極的に活動してくれる人が各地区で増え、互いに情報交換をしながら、間伐が進んでいくことを期待しています。

徳島農林事務所 日下 章代

